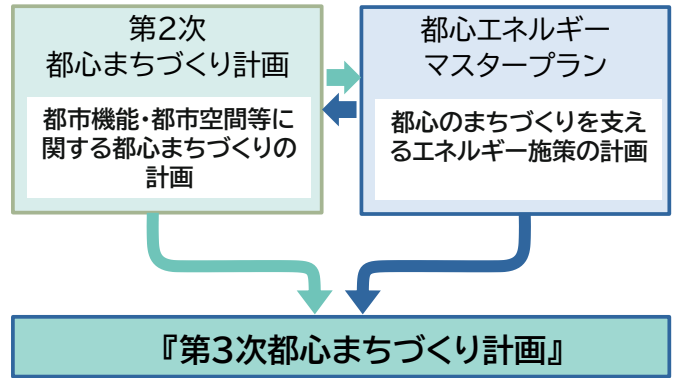


第3次都心まちづくり計画(案)
概要版

1 計画策定の背景、目的と位置付け

計画策定の背景

- これまで、札幌の都心は、都心まちづくりの計画とエネルギー施策の計画を両輪としてまちづくりを推進してきました。
- 今後は二つの計画を統合し、都心まちづくりの総合性と一体性の確保・強化を図り、重点戦略を明確化し、進行管理の一体化による実効性を確保することで、「質の高い都市機能」と「持続可能な環境性能」を兼ね備えた都心を目指します。



本計画の目的

- 本市の最上位計画である、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン(以下、「第2次戦略ビジョン」という。)において、都心を『北海道・札幌市の魅力と活力をけん引し、国際競争力を備えた高次の都市機能が集積するエリア』と定義し、目指す姿を示しています。
- これらの目指す姿及び計画策定の背景を踏まえたまちづくりを実現するためには、行政だけでなく、市民、企業、地域のまちづくり関係者など、多様な主体との連携・協働が不可欠です。
- 本計画は以下三点を目的として策定し、第2次戦略ビジョンで示す都心の実現を目指します。

- 次世代に引き継ぐ長期的な札幌都心の目指す姿を明確にし、市民や事業者をはじめとする関係者と共有する
- 本計画で示すまちづくりの方向性を、札幌都心の可能性と魅力を国内外に発信するツールとして活用し、都心まちづくりに関わる人々の輪を広げる
- 取組の方向を体系的に示し、具体的な推進方法を提示することで、公民連携によるまちづくりを確実に実行していく道筋を示す

計画期間

- おおむね20年後の将来を見据えた計画とすることを基本としつつ、社会経済情勢の変化や関連計画の変更などを踏まえて、本計画の基本方針や取組の方向などを随時見直します。

計画対象区域

- 第2次戦略ビジョンに示される都心の範囲を踏襲し、①JR札幌駅北口一帯、②大通と東8丁目・篠路通の交差点付近、③中島公園の北端付近、④大通公園の西端付近を頂点とする、ほぼひし形に広がる区域とします。
- 都心の機能強化につながる取組については、計画対象区域に関わらず柔軟に対応していきます。
- 本計画における取組の進捗や効果をモニタリングしていくため、境界を明確にした進捗管理区域を設定します。



2 現状と課題

これまでの都心まちづくりの成果

都市基盤の強化

- エネルギーネットワークの拡充
 - ・大規模開発と連動したエネルギーセンターや冷温水導管の整備 …など
- 交通環境の充実・強化
 - ・市電ループ化 ・公共駐輪場の充実
 - ・札幌都心交通研究会による道路環境改善に向けた社会実験の実施
 - ・北海道新幹線札幌延伸の推進 …など

都市空間・都市機能の充実

- パブリックスペースの充実と強化
 - ・北3条広場などの整備、民間開発機会を生かした新たな広場空間の創出…など
- 四季を通じて移動しやすい歩行空間の整備
 - ・チカホの整備、沿道建物との接続強化…など
- 市民活動を支える多様な機能の集積
 - ・創世スクエア(図書・情報館、劇場等)の整備 …など

エリアまちづくりの推進

- 持続可能な体制の構築
 - ・札幌大通まちづくり(株)、札幌駅前通まちづくり(株)、(一社)さっぽろ下町づくり社などの設立
- パブリックスペースの活用促進
 - ・社会実験等を通じた活用検討 …など

市民・来街者の意向

都心を利用する理由(市民)

- ・若者は「都心にしかない店舗や商品」、「都心でしかできない活動・体験」などへのニーズが高い

都心での活動実態(来街者)

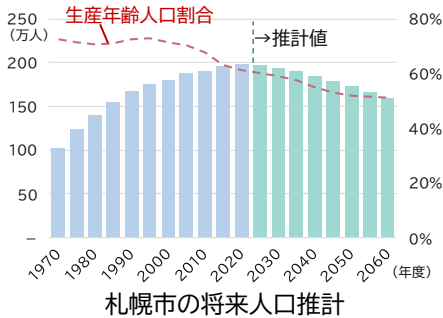
- ・外国人観光客は「まちの風景・景色の鑑賞」など“まちそのもの”への関心が高い

重視すべきまちづくりの分野

- ・市民は「災害に強いまち」、「誰もが快適に移動しやすいまち」等への関心が高い

社会・経済・環境の変化と札幌市のまちづくりの動向

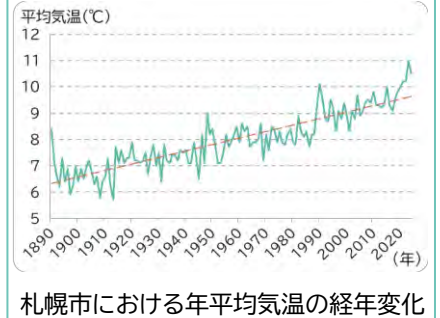
人口減少局面への移行による市内経済規模の縮小



ウォーカブルシティの推進



脱炭素社会の実現



都心まちづくりの課題

高次機能の更なる集積が必要

交通機能の維持・向上が必要

脱炭素社会の実現に向けたエネルギー施策の推進が必要

場所特性に応じたまちづくりの推進が必要

多様なエリアまちづくりの醸成が必要

歩行ネットワークの充実と質の向上が必要

災害リスクの高まりへの対応が必要

進捗管理と機動的な見直しが必要

豊かな時間を過ごせる場や機会の充実が必要

パブリックスペースの充実と柔軟な活用の促進が必要

投資を呼び込む都市の環境性・強靱性の向上が必要

新たな制度等の積極的な活用が必要

多様なエリアの個性の強化・発信が必要

魅力的なストリートを増やし回遊性を高める必要がある

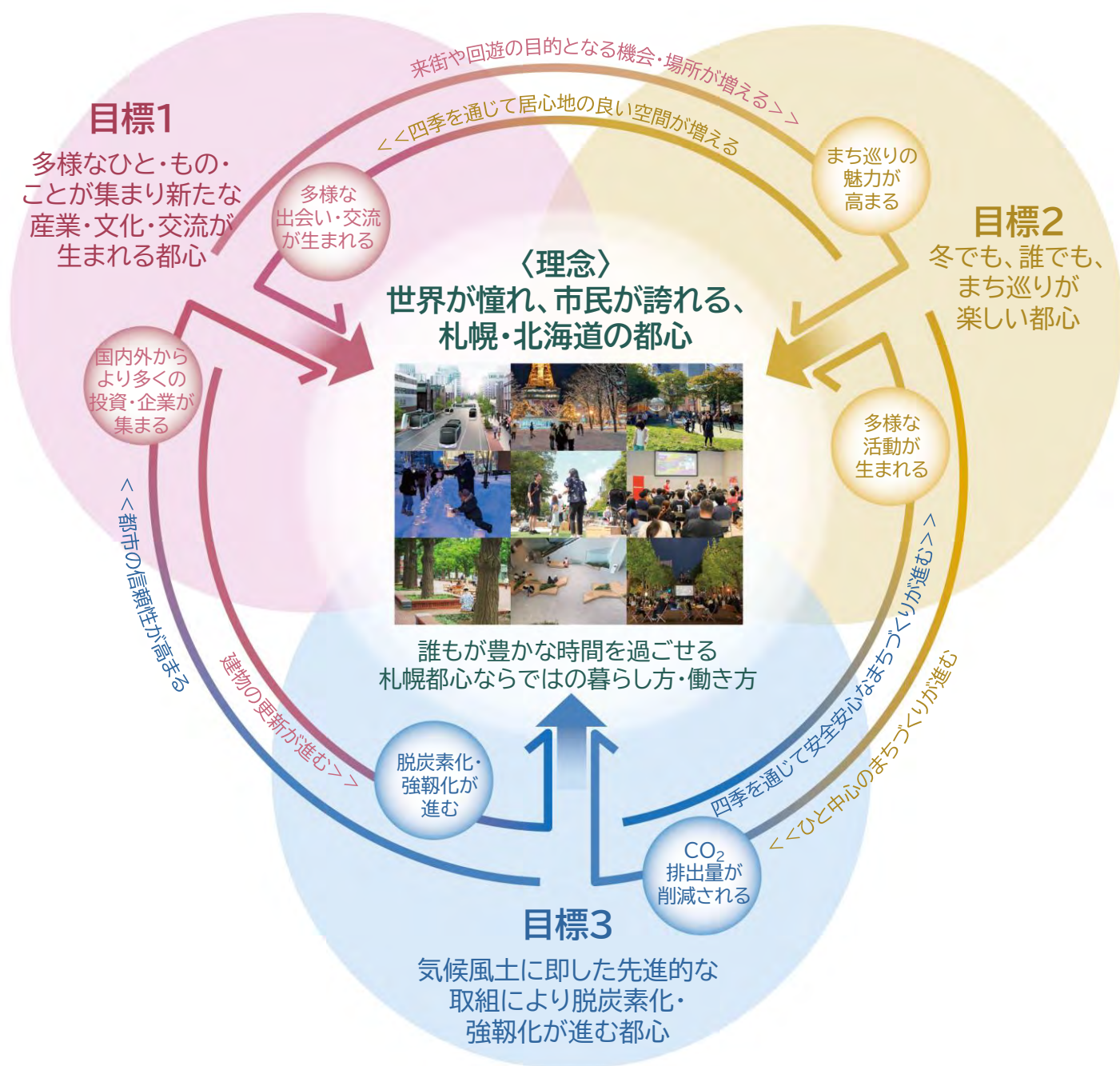
受入環境の充実が必要

変化する環境に柔軟かつ機動的に対応し、次代につながる都心のまちづくりを着実に進める必要がある

3 理念・目標と都心の構造

理念・目標

- 本計画では、これまでの都心まちづくり計画で示してきた「世界」・「市民」という二つの視点を踏襲し、都心まちづくりの理念を『世界が憧れ、市民が誇れる、札幌・北海道の都心』と設定します。
- その理念を実現するため、特に注力をしていく三つの『都心まちづくりの目標』を設定します。
- 三つの目標は独立しているのではなく、相互に関連しているため、一体的に取り組むことで四季の魅力に富んだ、誰もが豊かな時を過ごせる札幌都心ならではの暮らし方・働き方を可能にし、理念の実現につなげます。

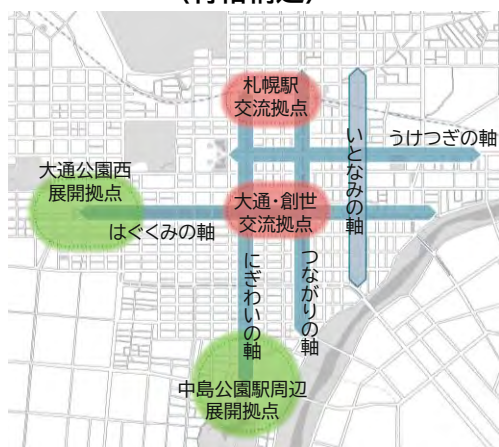


都心の構造

- 本計画では、都心におけるまちづくりとエネルギー施策の一体的かつ効果的な推進を図るため、『今後の都心まちづくりを進める上での最も重要な基本要素』として、軸と拠点からなる『骨格構造』と、エネルギーネットワークなどエネルギー利用に関するエリア特性を捉えた『エネルギー施策のエリア区分』を設定します。
- 骨格構造では、骨格軸の端点における拠点的な都市機能導入の可能性と、それに伴い進めているエリアまちづくりの動きを踏まえ、地域特性を生かしたまちづくりを重点的に展開するため、新たに「展開拠点」として二箇所を位置付けます。
- さらに、あらゆる場所でエリアまちづくりを推進するため、都心全体を隙間なく、地域資源や土地利用の現況を踏まえた特性ごとに整理した『まちづくりゾーン』を新たに設定します。

今後の都心まちづくりを進める上での最も重要な基本要素

〈骨格構造〉



骨格軸

：先導的な取組によって周辺街区への面的な波及や地区間の連続性を高める都心まちづくりの基軸

交流拠点

：多様な機能や活動が集積・連鎖することで新たな価値と交流を創造する、札幌都心の象徴的な拠点

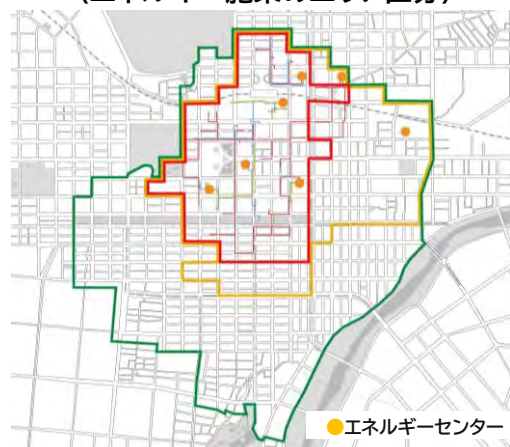
展開軸

：骨格軸と連携しながら地区間の連続性を生み出す基軸

展開拠点

：骨格軸と連動しながら新たな活動・交流を育む拠点

〈エネルギー施策のエリア区分〉



進捗管理区域(約460ha)

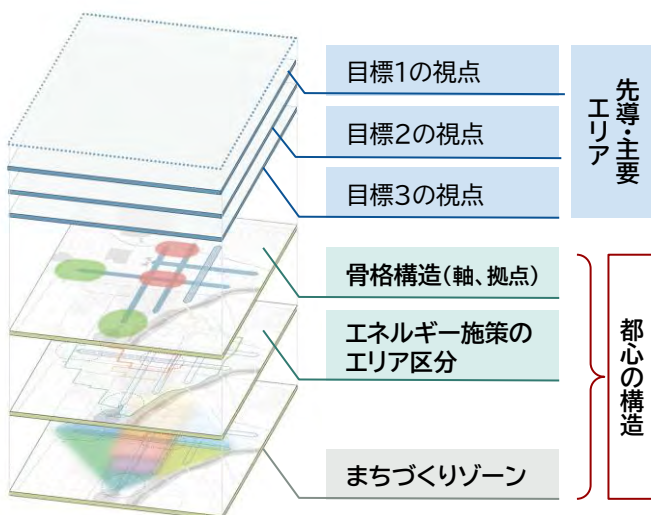
：小規模な建物や既存の建物も含めて脱炭素化を促進するために、都心のエネルギー利用に関する進捗管理を行う区域

脱炭素化推進エリア(約240ha)

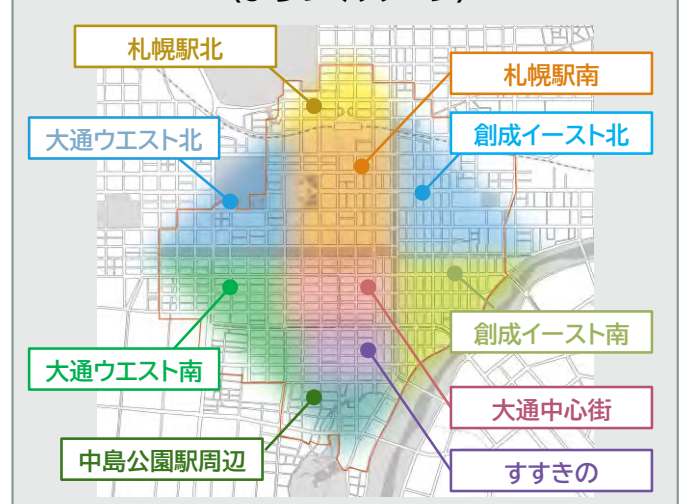
：建物の更新や面的開発の機会を捉え、最適な手法の組合せにより脱炭素化を推進するエリア

脱炭素化・強靱化先導エリア(約140ha)

：既存のエネルギーネットワークの積極的な活用による脱炭素化の実現と強靱性の確保により、世界から信頼される持続可能な都心に向けた取組を先導するエリア



〈まちづくりゾーン〉



4 取組の方向

目標1

多様なひと・もの・ことが集まり 新たな産業・文化・交流が生まれる都心

北海道・札幌市の魅力と活力をけん引する高次の都市機能の集積を図り、多くの人が集い交流し、まちの価値を高めていく取組の好循環を展開することで、国際競争力を備えた都心を実現します。

成果指標	都心における純付加価値額の上昇率
目標値	札幌市と経済規模が同規模の地方の中心都市の平均以上(2021年→2041年)

基本方針1-1 多くの人を呼び込む「高次都市機能の集積」

- 国内外からビジネスパーソンや観光客が訪れたいくなり、市民にとっては働く場としても出かけたくなる場としても魅力的に感じる都心であるために、都市機能の集積・高度化を図ります。
- 建物の更新の機会を的確に捉え、投資を呼び込み、経済をけん引する国際的な活動の拠点にふさわしい市街地を形成します。

1-1-1 アジア・世界に誇れる先進的なビジネス環境の形成

- 札幌・北海道の経済をけん引する企業の集積
- ワーカーの更なる活躍を引き出すビジネス環境の整備



1-1-2 北海道観光の玄関口にふさわしい機能の集積

- 多様な交通アクセスの充実・交通結節点の強化
- 多様なニーズを受け入れる滞在環境の充実
- MICEの推進
- 札幌ならではの付加価値の高い観光コンテンツの提供
- 観光客の受入機能の強化



1-1-3 多様な消費活動や体験が広がる場と機会の充実

- 多くの人をひきつける機能の集積
- 豊かな時間消費を支える場と機会の充実



1-1-4 地域特性に応じた機能の誘導

- 地域特性やまちづくりの動向を踏まえた機能の誘導

高次都市機能の集積を図るエリア

地域ごとの特性を生かしながら、都心にふさわしい業務・商業・集客交流・宿泊等の都市機能の充実・強化を図るエリア

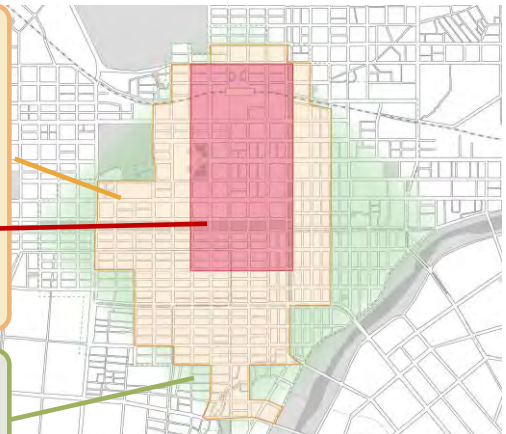
都心機能強化先導エリア

目標1の先導・主要エリア

業務機能等を国際水準に高め、国際競争力をけん引していくエリア(高次の都市機能の誘導を集中的に展開し、これら以外の居住機能等の立地に対しては協議・調整を図る)

居住を含む複合市街地を形成するエリア

多様な都市機能で構成され、職・住・遊が近接した魅力的な市街地の形成を目指すエリア



基本方針1-2 札幌らしい「都市のブランド力の強化」

- エリアマネジメントの推進により都心の各エリアが個性を磨き、みどりや雪を生かした景観や誰もが快適に過ごせる環境を整えていくことで、世界が憧れ市民が誇れる「札幌らしさ」を醸成していきます。

1-2-1 エリアの魅力や個性の発揮

- 地域主体のエリアまちづくりの推進
- まちへの愛着の醸成



地域主体のまちづくりに取り組んでいる地区(計画策定時点)

1-2-2

誰もが快適に過ごせる環境の整備

- 誰もが利用しやすい環境の整備
- わかりやすい案内の充実
- 安心して訪れることができる環境の整備



1-2-3

みどりのうるおいと木のぬくもりを感じられるまちの形成

- 多面的な機能をもつ都市緑化の促進
- 建築物等における道産木材利用の促進



1-2-4

札幌らしさが際立つ魅力的な景観の形成

- 洗練され、うるおいのある景観形成の推進
- 季節や時間ごとに異なる表情やにぎわいを感じる景観形成の推進



基本方針1-3 シティプロモーションの強化

- 都心まちづくりの取組を多様な主体間で共有し、都心の魅力や価値を一体となって発信することに注力します。
- 共感した市民や来街者が発信することを促し、さらに人や投資を呼び込んでいく好循環が生まれることを目指します。

1-3-1 都心の魅力や価値を国内外に届けるシティプロモーションの強化

- 世界に向けた発信力の向上
- 都心まちづくりの取組の共有・浸透



目標2

冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心

春季・夏季・秋季はもとより、積雪のある冬季においても、訪れる人それぞれが安心・快適に過ごせ、交流できる居場所があり、歩きやすく、まちにみどりやにぎわい、変化が感じられ、居心地が良く、まち巡りを楽しめる都心を実現します。

成果指標	成果指標① 主要地点における 歩行者交通量(平均値)	成果指標② 「まち歩きが楽しめる通り や場所が多い」と評価して いる人の割合
目標値	18,800人/日(2024年度) ⇒ 20,500人/日 (2044年度)	60.6%(2024年度) ⇒ 70.0% (2044年度)

基本方針2-1 札幌都心ならではの「魅力的なストリートの形成」

- 札幌都心の格子状の街路網は街並みが単調になりがちであることから、ストリートの魅力や個性を高めることが重要です。また、積雪寒冷地であることも踏まえ、季節や天候・目的によって選択性が高く、多様性に富んだ地上・地下の空間を形成することも重要です。
- こうした取組によって、来街者がにぎわいを感じられ、思わず回遊したくなる、札幌都心ならではの魅力的なストリートを形成します。

2-1-1 格子状の街路網の特徴を生かした、ストリートの魅力や個性の向上

- 回遊の基軸となる象徴的なストリートの形成
- 街路と沿道が一体となった魅力的な街路空間の形成
- 見通しの良さを生かした通りの景観形成や交差点における辻空間の魅力の向上



2-1-2 選択性が高く、多様性に富み、みどり豊かな、回遊したくなるストリートの形成

- 季節や天候、目的等による選択性が高い、滞在空間や回遊を促す歩行空間の創出
- 滞留や交流などの多様な活動ができるパブリックスペースの創出

2-1-3 積雪寒冷地ならではの屋外空間における魅力的な景観形成やにぎわいの創出

- 積雪期の魅力とにぎわいも考慮した札幌都心ならではのストリートの形成

基本方針2-2 都心のまちづくりを支える「機能的な交通環境の構築」

- 都心のにぎわいを創出し、その魅力と活力をさらに向上させるためには、都心における商業活動や文化活動、観光などの多様な活動を支える交通環境の構築が重要です。
- 人や商品・物の円滑な移動や荷さばき、公共交通の乗降、これらと密接に関連する駐車施設の適正配置などについて、多様な主体との連携を図りながら、都心の将来を見据えた機能的な交通環境を実現します。

2-2-1 都心に必要な交通機能やアクセス環境の確保

- 各路線相互の機能分担と各路線における必要な機能の配置
- 都心を目的地としない通過交通の適切な誘導等
- 都市活動を支える、荷さばきや人々の乗降などの空間の確保
- 駐車場の配置等の適正化



2-2-2 四季を通じて快適に移動できる環境の充実

- 安全・安心かつ円滑な歩行者動線の充実
- 交通結節点と都心内の移動手段との接続の円滑化
- 公共交通などの待合い、休憩環境の充実



基本方針2-3 多様な活動や交通環境を充実させる「戦略的なマネジメント」

- 多様な活動や交通環境を充実させるためには、基本方針2-1、2-2の取組に加え、道路、公園、河川、公開空地等のパブリックスペースにおいて、多様な活動や魅力的なコンテンツを創出することや、交通面においても効果的、効率的な道路空間の運用をしていくことが重要です。
- そのために必要となる戦略的なマネジメントを進めます。

2-3-1 パブリックスペースにおける多様な活動や魅力的なコンテンツの創出によるにぎわい・交流の促進

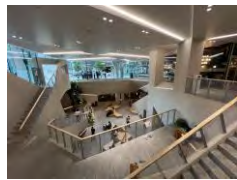
- パブリックスペースの多様な利活用を促進する仕組みの構築
- 柔軟かつ持続可能な利活用を実現する仕組みや体制の構築と情報発信



2-3-2

雪という札幌の個性を生かした、パブリックスペースの冬の利活用の促進

- 冬季の屋外空間や屋内空間の柔軟な利活用



2-3-3

限られた道路空間の運用の全体最適化

- 既存道路の利活用の工夫や道路空間の再編等

2-3-4

関連分野と連携した取組

- 健康(ウェルネス)や脱炭素(エネルギー)施策等への波及

主要回遊エリア・主要検討路線

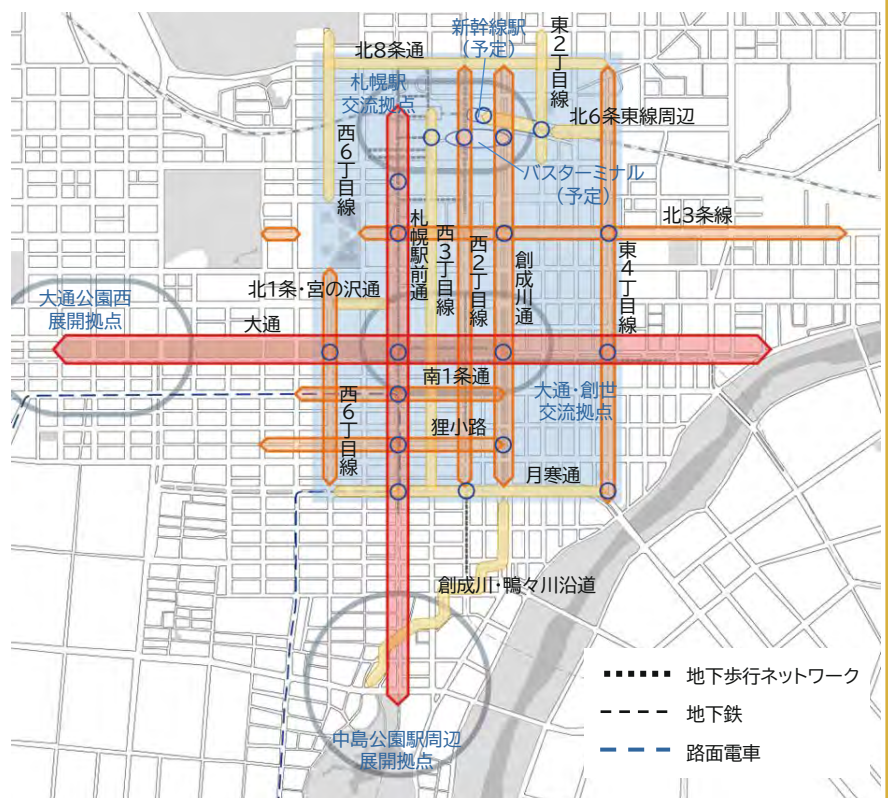
- 目標2の「取組の方向」を主に展開し、面的な回遊を強化する「主要回遊エリア」と、主要施設や魅力的な目的地、駅などを結び、回遊・滞在機能の強化に向けて検討を進める「主要検討路線」及び「拠点的交流空間検討箇所」を設定します。

目標2の先導・主要エリア

- 主要回遊エリア(面的な回遊を強化するエリア)
:「まちの資源」をもとに、主要施設が比較的多い範囲を設定

- 主要検討路線 (回遊・滞在の視点)
:主要回遊エリアや主要施設に加え、都心の骨格構造や関連計画、関連するまちづくり団体の取組状況等を踏まえて設定

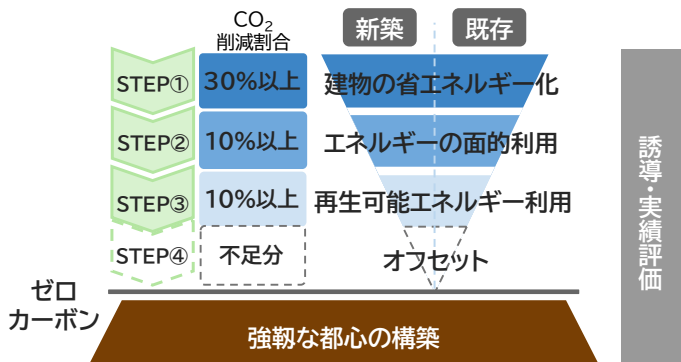
- 拠点的交流空間検討箇所
:主要検討路線が交差する箇所などを位置付け



目標3

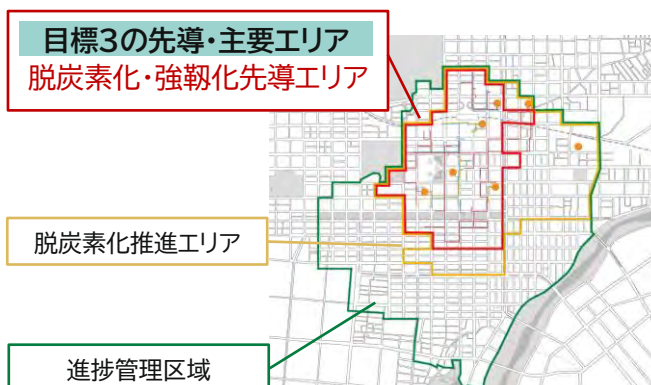
気候風土に即した先進的な取組により 脱炭素化・強靱化が進む都心

札幌特有の気候や地域特性に応じたまちづくりとエネルギー施策の一体的な取組の展開により、将来に渡り発展し続けるとともに安全・安心な都市活動を支え、世界から信頼される持続可能な都心を実現します。



〈建物における目標実現に向けた取組のイメージ〉

成果指標	都心の建物から排出されるCO ₂ 排出量
目標値	2050年のCO ₂ 排出量実質ゼロ (2013年度比で100%削減)



基本方針3-1 最適な手法の組合せによる脱炭素化の推進

- 2050年のゼロカーボンの達成に向けて「建物の省エネルギー化」、「エネルギーの面的利用」、「再生可能エネルギー利用」の三つの手順により建物からのCO₂排出量を削減することとし、建物の立地や規模、用途構成などに応じた最適な手法の組合せにより都心の脱炭素化を推進します。
- 現状においては、三つの手順だけではゼロカーボンを達成することが困難であることから、この不足分を補うために「オフセット」も活用することとします。
- 本計画期間中に建替更新が行われない既存建物のうち、とりわけ老朽化が進んだものは省エネ性能が低く、建物が解体されるまで多くのCO₂を排出し続けることから既存建物への取組を強化します。

3-1-1 新築や建替更新、改修時の徹底した省エネ化の推進

- 新築や建替更新、改修時における省エネ化
- 建物の立地、規模、用途構成などに応じた効果的な省エネ設備の導入拡大
- 新築建物及び既存建物へのBEMS導入拡大
- エコチューニング®を通じた既存建物におけるエネルギー利用の運用改善
- 中小規模建物への効果的な支援策の検討

3-1-2 エネルギーの面的利用の更なる拡大と効率化

- エネルギーネットワークへの接続の推進
- 都市開発と連動したエネルギーセンターの整備や冷温水導管の拡大
- 複数のエネルギーセンター間の連携に向けた熱導管の拡充
- エネルギーセンターにおける熱の脱炭素化の推進
- 既存のエネルギーネットワークとの接続が難しい地域における拠点型エネルギー供給の推進

3-1-3 先進技術を活用した再生可能エネルギーの導入

- オンサイトでの再エネ導入
- オフサイトPPAによる再エネ電力の導入
- エネルギーセンターへの木質バイオマスなどの再エネ導入拡大
- 北海道内自治体との連携による再エネ電力の導入
- 再エネに由来する水素エネルギーなど新技術の導入検討
- 再エネに由来するクレジット等を活用したCO₂オフセット

基本方針3-2 雪や寒さにも負けない、安全・安心で強靱な都心の構築

- 札幌都心は、市民、観光客、ワーカーなど多様な人々が集まり、日々様々な都市活動が行われる重要な場所です。
- こうした都市の活動を安定的に継続し、誰もが安心して過ごせる環境を確保するためには、冬季の厳しい気象条件や自然災害を見据えた備えが不可欠であることから、まちづくりとエネルギー施策を一体的に進め、災害に強く、持続可能で誰からも信頼され、安全・安心で強靱な都心を構築します。

3-2-1 災害時における市民、来街者、ワーカーの安全確保

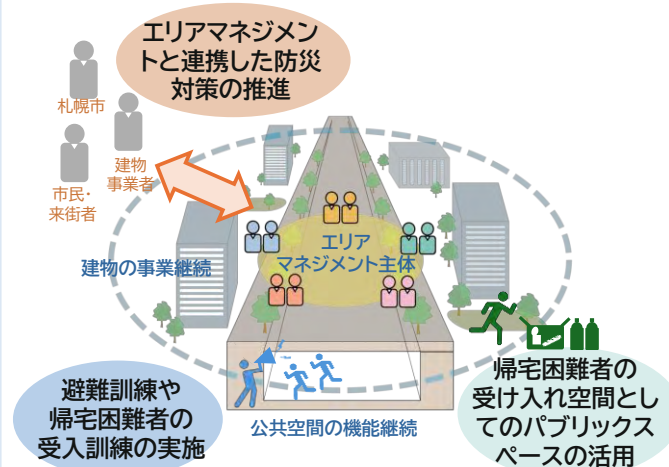
- 民間建築物等の耐震化
- 冬季における災害を想定した一時滞在施設の整備
- 一時滞在施設への電力・熱・水の供給継続
- 地下空間における浸水対策の推進
- 災害発生時における来街者への情報伝達の強化

3-2-2 経済活動を維持するための備えの充実

- 非常用電源の整備促進
- 複数回線受電による業務継続体制の強化
- 都市開発と連動したエネルギーセンターの整備(再掲)
- 防災備蓄倉庫の整備促進

3-2-3 多様な主体による防災に向けた取組の促進

- エリアマネジメントと連携した防災対策の推進
- 帰宅困難者の受入空間としてのパブリックスペースの活用



基本方針3-3 先進的な取組の誘導と適切な進捗管理

- 基本方針3-1、3-2に示す脱炭素化の推進、強靱な都心の構築を着実に進めるために、建替更新や改修の機会を的確に捉えて建物の立地や規模、用途構成などに応じた効果的な取組を「誘導」とともに、適切に「実績評価」を行うことにより計画の実効性を確保します。
- また、「誘導」と「実績評価」により得られた知見は、他の建物への波及や新たな施策に生かすことにより、更なる取組の強化につなげていきます。

3-3-1 建物の特性に応じた効果的な取組の誘導

- 「札幌都心E！まち開発推進制度」による取組誘導
- 既存建物の改修等を促す誘導方策の検討

3-3-2 着実に脱炭素化を推進するための実績評価

- 「札幌都心E！まち開発推進制度」における運用実績報告によるCO₂削減量のモニタリング及び公表
- モニタリング結果の適切な評価と追加施策の検討
- 特に優れた取組を実施する建物の認定及び公表



3-3-3 先進的な取組誘導・評価制度の確立

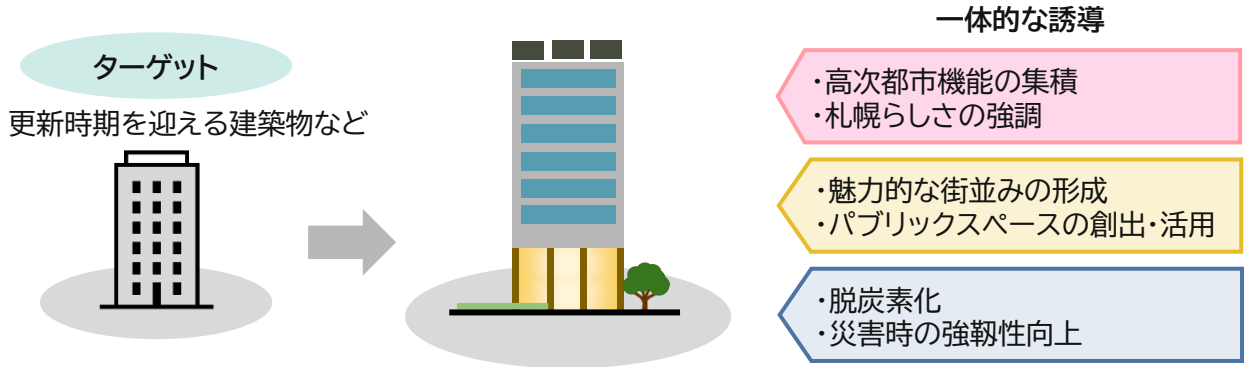
- 「札幌都心E！まち開発推進制度」の運用改善
- 認定制度の効果的な活用方策の検討
- 都心まちづくりの総合性・一体性の確保につながる取組の誘導・評価制度の確立

5 重点的に進める取組

基礎となる取組

『まちづくり×エネルギー』の一体的な展開

- これまでも民間建築物などに対し、良好な開発となるよう、誘導・調整してきたところですが、今後はまちづくりとエネルギー施策が相互に補完しあう仕組みを構築し、建替更新等の機会を通じて目標の実現につながる取組の一体的な誘導を図ります。



『札幌らしさ』の強調

- 都心まちづくりの理念「世界が憧れ、市民が誇れる、札幌・北海道の都心」を実現するためには、国内外から訪れる人々が他都市にはない固有の価値を感じられるよう、ゆきとの共生やみどりとの調和といった気候風土を生かした街並みや、人々が集い交流し、多様な活動が生まれている風景などに『札幌ならではの魅力』を表出することが重要です。

ひと 	ゆき 	みどり 
<p>空間を利用する人・運用する人を中心に考える</p> 	<p>雪や寒さを札幌の魅力・活力とするよう考える</p> 	<p>まちの価値を高めるみどりの充実を考える</p> 

場所別の取組

- 目標実現のため先導的な役割を果たすべき場所の選定にあたっては、特性や開発機運、エリアまちづくりの動向に加え、骨格構造の位置付けと目標ごとの先導・主要エリアを総合的に考慮しました。
- これらの要素を踏まえ、計画期間内に着実にまちづくりの進展を図ることで、その効果が周辺や都心全体に波及・連鎖することが見込まれる取組を重点として位置付け、場所別に示します。

重点1 大通・創世交流拠点とはぐくみの軸周辺

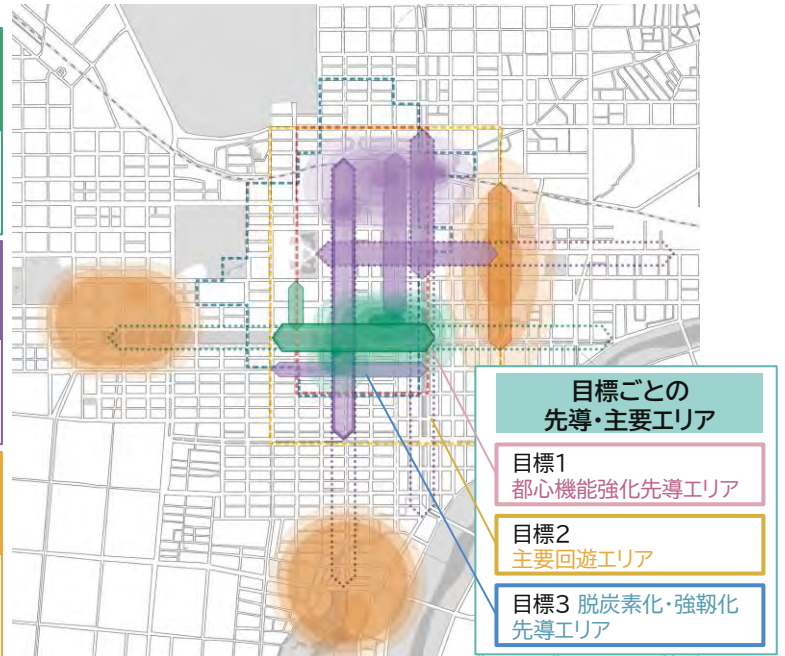
世界が憧れ、市民が誇れる、都市ブランドを確立する新たな象徴空間の創出

重点2 都心まちづくりを先導する二つの交流拠点とネットワーク

目標の実現を先導し、国際競争力をけん引するまちの形成

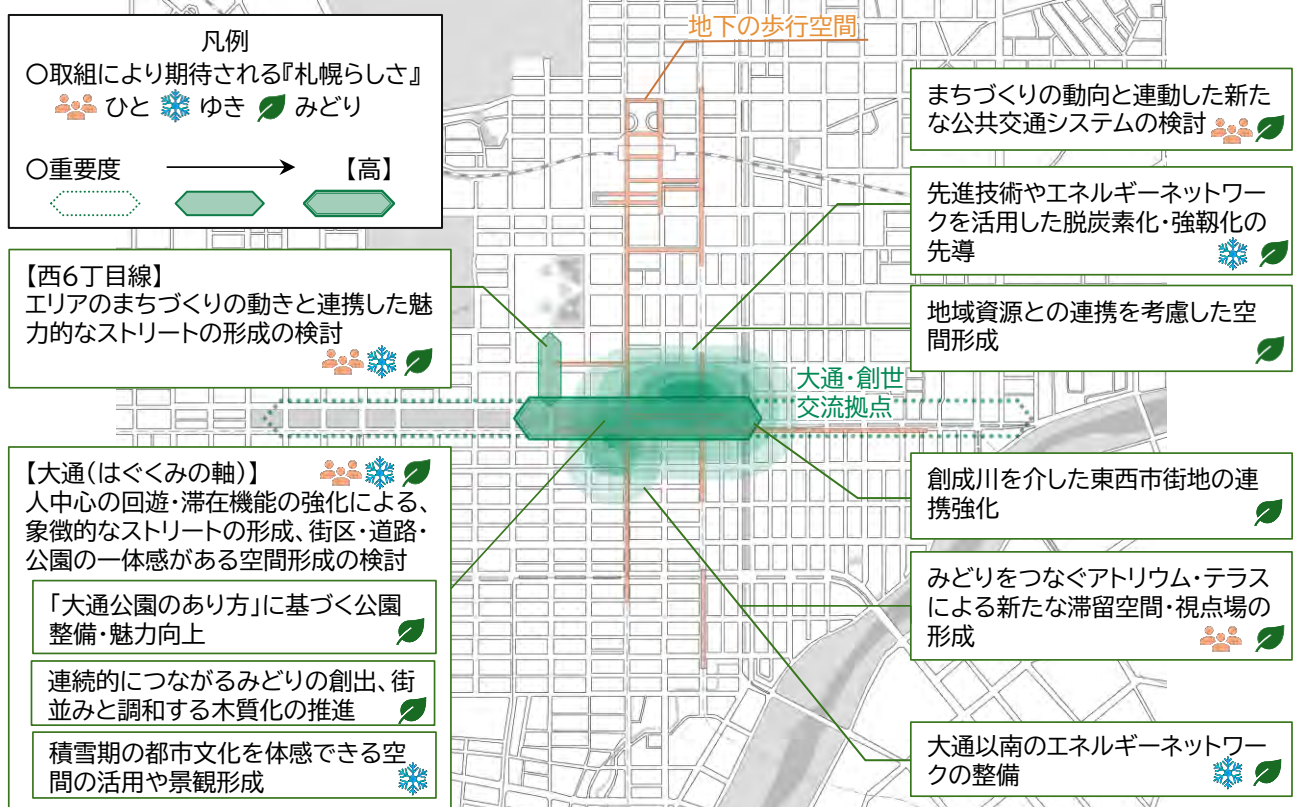
重点3 二つの展開拠点と展開軸

都心の多様な魅力を高め、個性を生かすエリアまちづくりの展開



重点1 大通・創世交流拠点とはぐくみの軸周辺

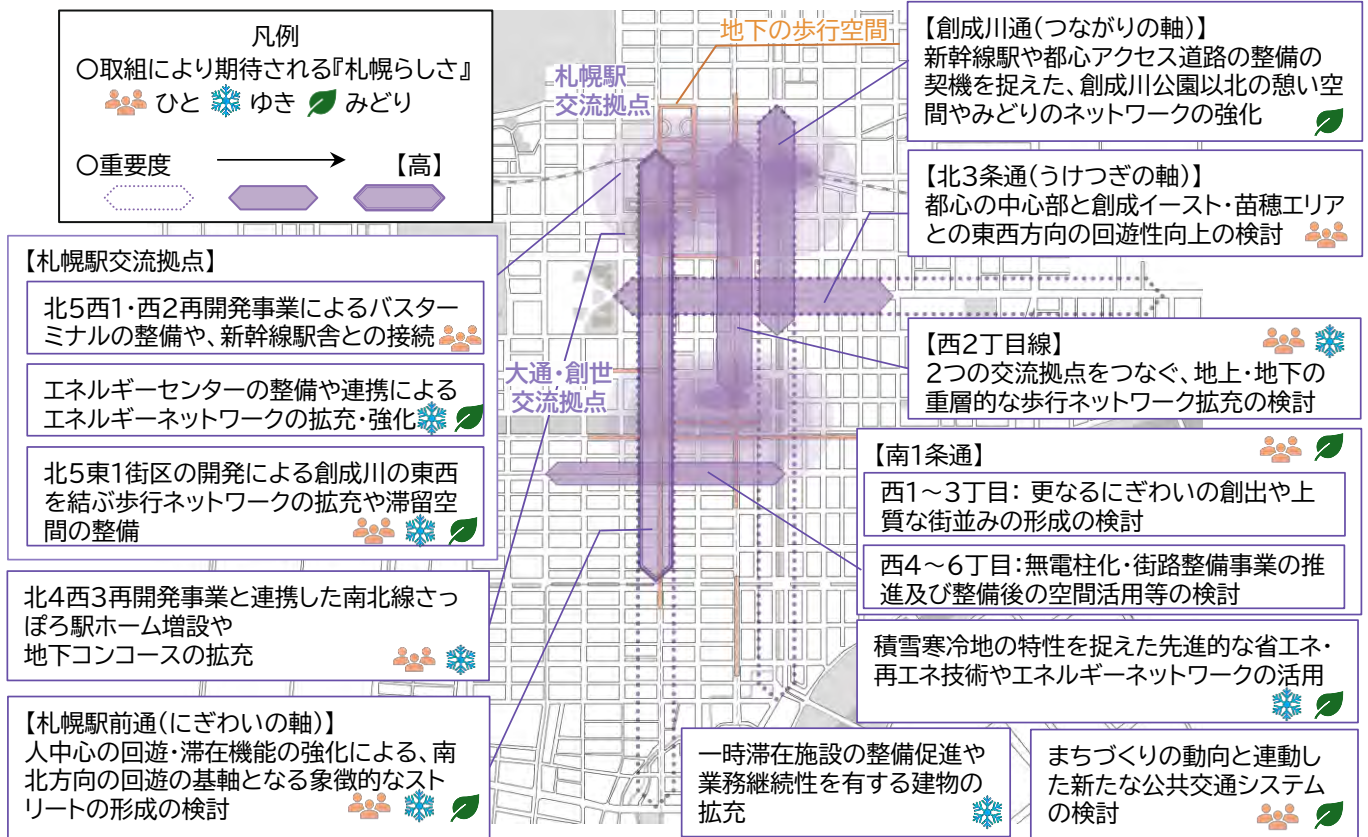
集積する市有地の利活用を図りながら、官民の連鎖的な開発と相互連携によって、街区・道路・公園の一体感がある新たな象徴空間の創出を目指します。



重点的に進める取組

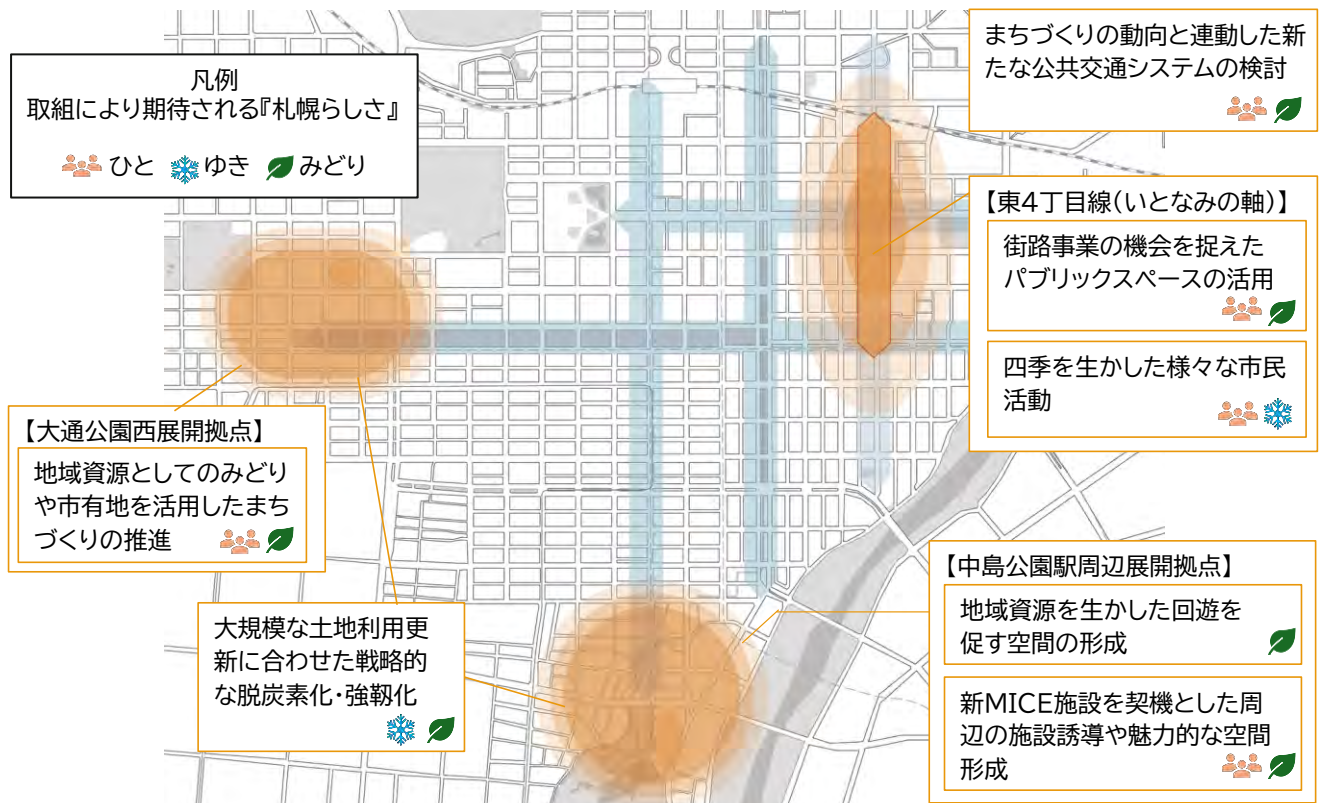
重点2 都心まちづくりを先導する二つの交流拠点とネットワーク

現在進行中の都市開発等と連携しながら、エネルギーネットワークや歩行ネットワーク、みどりのネットワークなどの拡充により三つの目標を一体的に具現化していきます。



重点3 二つの展開拠点と展開軸

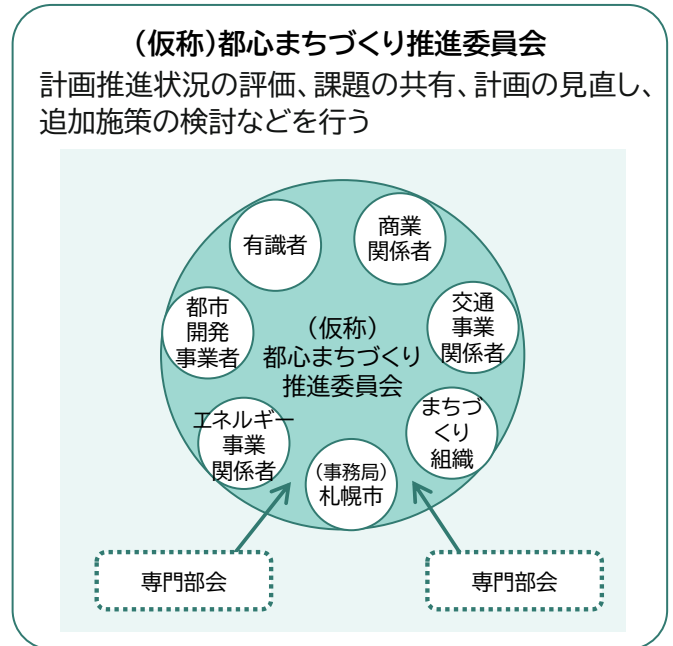
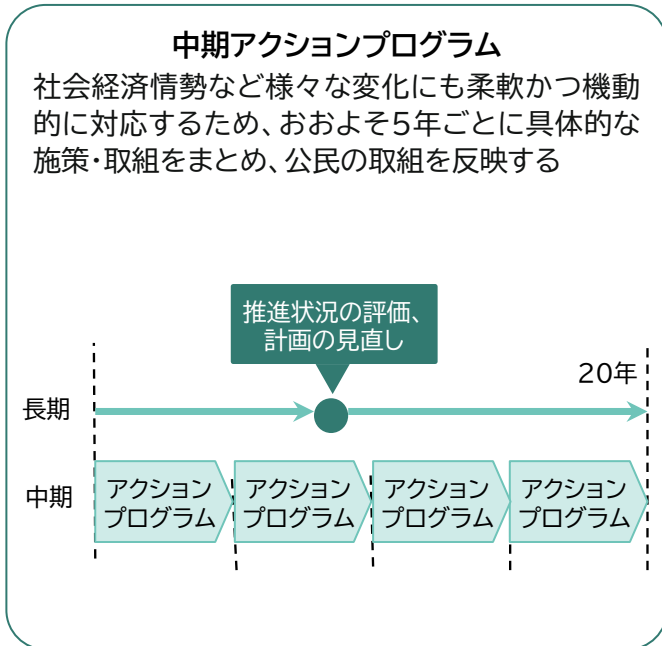
都心中心部とは異なる特徴・個性を発揮し、地域資源を生かしたエリアまちづくりを重点的に進め、都心全体の回遊を促します。



6 取組の進め方

仕組みと体制

- 都心まちづくりの理念の達成には、行政だけでなく、市民・企業・地域のまちづくり関係者など、多様な主体が連携・協働し、それぞれの役割・責任のもと、持続的にまちづくりを進めることが不可欠です。
- 中期アクションプログラムの策定、モニタリング指標によるデータ収集・把握を通じて適切な進捗管理を行うとともに、多様な主体が参画する「(仮称)都心まちづくり推進委員会」(以下、「推進委員会」という。)が都心まちづくりのマネジメント機能を担うことで、実効性のあるまちづくりを進めます。



連鎖的な取組の展開

- 推進委員会で全体をマネジメントしながら、『まちづくりとエネルギー施策の総合性・一体性の向上』、『エリア別・テーマ別の取組の更なる充実』、『市民・企業・行政などの協働』の視点で取組の連鎖を促し、社会経済情勢の変化にも機動的に対応できる都心まちづくりを目指します。

